

OMUPニュースレター



発行:大阪公立大学共同出版会

2006年10月

第13号

目次

- ・ 第7回評議員総会、NPO法人設立総会終わる ……1
- ・ NPO法人化に向けた準備について ……2
- ・ 書評
 - 1. 村田京子著“Les metamorphoses du pacta diabolique dans l’oeuvre de Balzac” ……2
 - 2. 小股憲明著“近代日本の国民像と天皇像” ……3
 - 3. 阿部敦・渡邊かおり著“「少子高齢化社会」の描かれ方” ……3
- ・ “OMUP会員が新入生にすすめる本”第4号 ……4
- ・ OMUP主催ブックフェア開催 ……4
- ・ “ヨーロッパ 本と書店の物語”を読んで ……5
- ・ 大学出版部協会夏期研修会に参加して ……6
- ・ 新顔登場 --- 考える猫の手を提供します ……6

引き続きNPO法人設立総会に切り替え、出席者数確認、議長就任の後、次の議案がすべて承認された。

1. 特定非営利法人大阪公立大学共同出版会設立認証申請の件
2. 活動目的等の確認の件
3. 定款承認の件

(次頁へつづく)

平成17年度事業決済および平成18年度事業予算

収入の部	平成17年度予算	平成17年度決算	平成18年度予算
前年度繰越金	2,726,234	2,726,234	4,089,281
書籍売り上げ	1,500,000	2,230,460	1,500,000
出版料(著者から)	5,000,000	600,000	3,000,000
出版助成金	1,000,000	1,400,000	1,000,000
出版分担金	200,000	99,685	200,000
出資金(1口10,000円)	150,000	50,000	200,000
広告料	2,000	4,000	2,000
利子	1	25	1
雑収入(版權取得費,その他)	1	20,000	1
合計	10,578,236	7,130,404	9,991,283

支出の部	平成17年度予算	平成17年度決算	平成18年度予算
1 直接出版関係費用			
(1)製造費	5,000,000	1,395,724	3,000,000
(2)運送・発送費	100,000	47,930	100,000
(3)編集デザイン料	1,200,000	130,000	600,000
(4)企画出版	500,000	250,000	500,000
小計	6,800,000	1,823,654	4,200,000
2 事務費用			
(1)交通費	50,000	0	50,000
(2)通信費	100,000	140,036	150,000
(3)消耗品費	50,000	11,910	50,000
(4)備品費	100,000	87,092	100,000
(5)出張費	100,000	0	100,000
(6)会議費	30,000	11,396	30,000
(7)調査研究費	100,000	0	100,000
(8)広報・広告	300,000	306,700	350,000
(9)渉外費	30,000	0	30,000
(10)光熱水費	50,000	0	50,000
(11)業務委託	500,000	500,000	500,000
(12)振込支払料	30,000	11,535	30,000
小計	1,440,000	1,068,669	1,540,000
3 その他			
(1)書籍売上著者清算	150,000	0	1,600,000
(2)書籍買取り	30,000	118,800	120,000
(3)出資金払い戻し	50,000	30,000	—
小計	230,000	148,800	1,720,000
4 次年度繰越金	2,108,236	4,089,281	2,531,283
合計	10,578,236	7,130,404	9,991,283

第7回評議員総会(解散総会)、 NPO法人設立総会終わる

去る5月21日、大阪市立大学学術情報総合センター1階会議室において、わが大阪公立大学共同出版会(OMUP)の会員総会とも言える評議員総会が開催された。総会成立の確認、議長選出、議事録署名人選出の後、前回総会以降の活動報告がなされ、引き続き平成17年度の決算案、平成18年度の予算案が承認された。また、すでに昨年度からNPO法人化移行についての検討結果を受けて、これまでの任意団体として運営してきた本出版会の解散と移行に伴う案件が上程された。議題の審議内容は概略以下のとおりである。

1. 平成17年度事業決算の承認
2. 平成18年度暫定事業計画の承認
3. 任意団体OMUPの解散とNPO法人OMUPの設立について原案一括承認
4. 残余財産の処分について、一部未確定額の増減のあることを了承した上で承認

4. 設立当初の財産目録承認の件
5. 設立初年度および翌年度の事業計画承認の件
6. 設立の初年度および翌年度の収支予算書承認の件
7. 設立代表者および役員を選任の件
8. 入会金および会費規則の件
9. 役員に対する実費弁償規則の件
10. 議事録署名人選任の件

なお、上記案件はNPO法人設立に際して申請当局から事前に提出を求められていたものであった。また、申請後、承認されるまでに約4ヶ月の審査を要するため、予算関係は新旧の出版会および今翌年度の暫定的立案を要したものである。

総会終了後、場所を同大学理学研究科会議室に移し、懇親会を開催した。任意団体としての満5年を経過して、OMUPの思い出、今後の展望などが語られた、和やかな懇談であった。

なお、平成17年度事業決算および暫定的平成18年度予算案は別表の通りである。また、大阪府のNPO法人承認を受け、法務局に登録した時点で任意団体OMUPの平成18年度決算を実施し、新組織の予算案に切り替えることとなる。

NPO法人化に向けた準備について

常務理事 小股 憲明

平成17年5月21日第6回総会において、NPO法人化に向けた準備を進めることが承認された。常務理事会でその作業を進めることとし、主に私がその書類作成作業を担うこととなった。そこで大阪府が作成した「特定非営利活動法人(NPO法人)設立・運営の手引」(平成17年4月)を参考にしながら、設立趣意書、定款、事業計画、収支予算書などの案を作成して、常務理事の足立先生とご一緒に、平成17年度中に2度、大阪府府民活動推進課に出向いて事前相談を行った。対応の担当者は、大学課に在籍したことがある方で、いろいろと親切に指導していただき、たいへん助かった。この事前相談を通じて、OMUPがNPO法人として認証されることについて、明るい見通しを持つことが出来た。法人化にともなう必要となってくる法人会計処理についても、足立先生とご一緒に、杉本会計事務所を訪れ相談にのっていただいた。

法人の認証を得る見通しが立ったことから、平成18年5月27日第7回総会において、任意団体OMUPはNPO法人設立登記の日をもって解散すること、残余の財産はすべてN

PO法人OMUPに寄付することなどを決議し、その後直ちに、NPO法人大阪公立大学共同出版会の設立総会を開催し、定款その他の必要事項を議決した。法人の理事や監事には、任意団体の理事、監事にそのままお引き受けいただくことができた。

平成18年6月29日に、足立先生と一緒に法人認証の申請書類一式を持参して、府庁の府民活動促進課NPO法人グループの窓口に出向いたが、事業計画書と収支予算書に不備があったため、いったん持ち帰ってそれらを修正し、改めて7月7日に申請書類を持参した。それでも軽微な書類不備があったため、府民活動促進課の向い側にある大学課の部屋に飛び込んで、顔見知りの橋口さんに無理を言って、パソコンを使わせて貰って不備を修正し、やっと受理してもらうことができた。

なにしろ初めて作る書類ばかりで、それも10種類くらいあって、ずいぶんとモタモタしたが、なんとかNPO法人認証申請の手続きを終え、ホッとしている。後は、4ヶ月後の大阪府による認証を経て、法務局に法人としての登記を行うこととなる。

NPO法人化すると、法人会計に則った会計処理が必要となり、会計事務所から指導を受けるための費用も発生するし、毎年大阪府に活動報告書を提出する義務も生ずるが、そのような義務を果たすことによって社会的信用を高め、法人としての契約行為も可能になる。法人化を契機に、OMUPのいっそうの発展を図っていきたいものである。

書評

1. 村田京子著

“Les metamorphoses du pacta diabolique dans l'oeuvre de Balzac”

本書は我がOMUP社にとっては初めての仏語で、フランスのKlincksieck者との共同出版の形態を取った。これまでに下記の4誌からの書評が届いており、村田京子先生に翻訳の協力を得て、ここに一部を抄録しました。

1. L'Annee balzacienne 2006, Presses Universitaires de France pp. 437-440
(書評：Chantal Massol)

・・・「悪魔との契約」のテーマが幻想空間から現実空間へどのように移行していくかを非常に明確に証明している。その中で、『和解したメルモス』(1835)が、その「現実に潜む幻想性」によって二つの空間を繋げる作品となっている。同様に1835年に出版された『ゴリオ爺さん』におけるヴォートラン(=悪魔的な誘惑者の役割を担った反抗者)の登場によって、方向展開が成し遂げられる。・・・(中略)・・・

本著作は、厳密さ、明晰さ、分析の巧みさ、バルザックの作品の習熟度において質の高いものである。読んで非常に興味深く、刺激的な著作となっている。(後略)

2. Nineteenth-Century French Studies,
spring-summer 2005, 33(3 & 4) pp418-419
(書評:Owen Heathcote)

この本のタイトル『バルザックの作品における悪魔との契約の変貌』は、謙虚に過ぎるほどだ。村田氏は、バルザックにおけるpactとcontractに常に焦点を当てながらも、バルザックの決定稿だけでなく、それ以前のテキスト、様々な批評など、あらゆる材料・知識を総動員して、バルザックの初期作品『百歳の人』から晩年の作品『従妹ベット』に至るまで、的確な分析を行っている。(中略)

村田氏の著作は、一見法的な調停または「悪魔との契約」というお馴染みの文学的トピックスに限られるかに見えて、実は独創的で、見事に論じられた、ダイナミックなバルザック研究となっている。そこではジェンダー、歴史、文学を関連づける示唆に満ちた洞察洞察がなされている。この本は、明晰で思慮に富み、全く読むに値する本となっている。

3. Revue d'histoire litteraire de la France,
avril-juin 2005、(2)pp.460-462
(書評:Alex Lascar)

(前略) 真に新しく示唆に富んでいるのは「現実空間」における「契約」と第二部d、「天使的な契約」の分析—特に『谷間の百合』に関して—は非常に興味深い。また、ニュシゲンが体现するブルジョワ体制がヴォートランの持つアナーキーな力を次第に打ち負かしていく過程がひもとかれ、芸術創造と父性愛との結びつきが1840年代には一転して母性愛と結びついていく様が見事に捉えられている。(後略)

4. Romantisme,128, 2e timestre 2005
pp.137-138 (書評:Anne-Marie Baron)

(前略)村田氏が強調しているように、バルザックは王政復古期のパリという資本主義的なブルジョワ社会に悪魔的な契約を組み込むことで、「社会的な幻想空間」を生み出した。それだけでなく、彼は超自然的な力を相対的な価値に還元することで「悪魔の終焉」を告げている。バルザックは確かに「悪の詩」を謳いあげた。しかし、彼が形而上学的考察、神秘的考察をレアリスム小説にどのように統合していったかについて、村田氏はもう少し強調すべきだったかもしれない。

確実な資料で裏付けられたこの著作は、バルザックの作品において悪魔の契約が取る様々な形を分析した非常に刺激的なものである。バルザック以前の、そして同時代のあらゆる幻想文学に関しても非常に独創性に富んだ分析と言えよう。

書評

2. 小股憲明著

『近代日本の国民像と天皇像』

2005年3月にOMUPが刊行した小股憲明『近代日本の国民像と天皇像』の書評が、『教育学研究』第73巻第1号(2006年3月)、57～59頁に掲載された。評者は近代日本教育史を専攻する埼玉大学森川輝紀教授で、大部な本書を丹念に読み解いて、丁寧な紹介と批評がなされている。その末尾近くで、評者は著者の姿勢と本書の意義について、次のように評しているのが印象深い。

「本書を一読して痛感させられたのは、歴史を問う眼線の謙虚さである。西洋近代をモデルに、あるいは現代の眼線から近代のナショナリズムと天皇制とそして教育を問うことを厳しく戒めている。後発として近代化を課題とした日本の近代の可能性と現実を、いわば同時代史的視線で捉えようとしている点に本書の意義を見ることができる。人民と(国民)と政府と天皇を単純な対立的構図で捉えることなく、近代国民国家としての一般性を基軸にしてナショナリズムと天皇制と教育の関係を問うことによって、本質的な近代日本教育の課題を見い出そうとする本書は、実に刺激的な著作だといえる。」

書評

3. 阿部敦・渡邊かおり著

『「少子高齢社会」の描かれ方』

OMUPブックレットNo. 2として刊行本である本著が大坂保険医雑誌2005年12月号の『ほんだな』欄に取り上げられた。その要約は次の通りである。

本書は高校で使われている検定教科書(公民科・現代社会)の分析を通して、国が以下に歪んだ内容の「少子高齢化」像を子ども達に教育しているかを告発したものである。

正確な現状を反映していないデータや数値を根拠にしている点を著者は問題視し、まず異なる二つの少子高齢化社会論を提示する。一つは国や財界が推し進める「労働人口激変型」少子高齢化社会論で、……少子社会「危険論」である。もう一方は「労働力の規模的同質性を描く」少子高齢化社会論で、高齢者(=非就業者)という考え方は誤った区分けであり、正確な就業者一人あたりの扶養人数は、総人口に占める就業人口の割合を算定することで導き出される、と論ずる。そしてこの計算によると1920年から今日までほとんど数値に変化なく推移している点を強調する。すなわち少子高齢化社会に至っても、元気に働く高齢者が増えているために、全体として就業者数は減少していない。だから、国が主張する「労働人口激変型」のような急激な税収不足に陥ることもなければ、それに伴う国民負担増も心配ないと説く。著者はこの見解に立つ。

(中略)実際に使われている検定教科書の大半が「労働人口激変型」の立場からの記述になっており、著者は「大きな誘導が内在している」と批判している。そしてこのような検定教科書を介した歪んだ少子社会「危機論」は、「新自由主義的価値観」の押し付けであると警告を鳴らす。現状の誘導的

教育から客観的な視座に立った教育への転換策として、教育現場に「社会福祉の視点」の導入を著者は提案する。(後略)

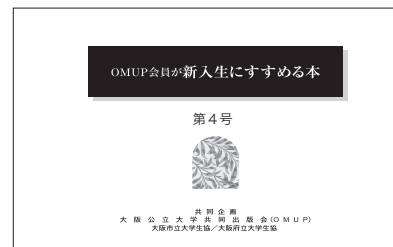
手軽なブックレットである本書は、院内のスタッフや患者さんとの学習会に活用されることをお勧めしたい。

“人生を変える1冊の本”を探してみませんか 「OMUP会員が新入生にすすめる本」 第4号

市大生協、府大生協との共同企画で刊行！

第4号は本年5月に発行され、9名の先生方の個性あふれる推薦図書とメッセージが並んでいます。話題の本から専門的な本まで紹介されており、各先生の素顔が垣間見られるバラエティ豊かな内容です。ただいま、生協の店頭で渡されており、やがて、恒例のフェアが実施されることになっています。例年、学生たちにとっては身近な先生方の推薦図書であるため、興味深く本を手にとっている姿を目にします。乞う、ご期待。

また、昨年度は恒例となったパンフレット「OMUP会員が新入生にすすめる本」第3号の発刊が遅れ、執筆者、会員、新入生の皆さんにご迷惑をお掛けし、申し訳ございませんでした。



関西圏大学出版会ブックフェア

大阪公立大学共同出版会創立5周年・NPO法人化記念

大阪公立大学共同出版会(OMUP)の創立5周年と非営利特殊法人(NPO)化を記念して、下記の予定で関西圏の大学出版会合同のブックフェアを開催します。

場所: ジュンク堂書店大阪本店3階イベントコーナー

期間: 平成18年11月4日(土)～12月31日(日)

内容: 出版書籍展示・販売 および 講演会

主催: 大阪公立大学共同出版会(OMUP)・大阪経済法科大学出版部・大阪大学出版会

関西大学出版部・関西学院大学出版会・富山大学出版会・三重大学出版会

「ヨーロッパ 本と書店の物語」 (小田光雄著、ISBN4-582-85234-3, 平凡社 ¥760+税) を読んで

常務理事 足立 泰二

活字文化を支える裏方の泣き笑い物語、とでも言えよう。近世から近代ヨーロッパの書物と文化・文学を取り巻く多彩なドラマが赤裸々に描かれている。意外にも現代の出版事情にも相通ずる事例も示され、現代の我々にも多くの示唆を与えてくれるものとして、一読をお勧めしたい。と同時にOMUPが直面している問題を会員の皆様と考えてみたい。

かのドイツの文豪、ゲーテですら、最初の著書は自費出版だったことを皆さんはご存知だろうか。そしてそれを助けた友人メリケは後の『ファウスト』のメフィストフェレスのモデルだったとも言われている。処女作がある書店の目にとまり、『若きヴェルテルの悩み』を書き上げることになり、それこそ順風満帆の作家階段を上ることになったのである。18世紀後半、出版業界とアカデミズムと新聞による文芸ジャーナリズムがすでに確立されていた頃でさえ、出版と著者との関係はビジネスが先行する形であったのである。

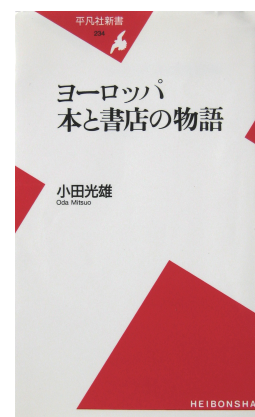
この頃のわが国ではそれをはるかに凌駕して、作家を目指す人たちが数々の文芸賞を狙い、受賞作家の書籍がベストセラーとして書店の店頭を賑わせている。それ自体は大変喜ばしいことだし、読書の楽しみをそそるものでもある。受賞者の若年化と高齢化に向かっており、おしどり作家なども話題にもなるご時世である。ただ、活字文化の多様性という面からは儲け中心の出版業だけでは困ることには、多言を要しない。特に学術に係る書籍出版が世相を反映して儲けからず、結果的には高価なために、買わない、読まない、出版できないという惨めな状況になる。

ところで、本著では上山安敏は『神話と科学』の一部を引用し、出版は、いわば「創造的な仕事」であると、次のように著しているというのである。

“時代の精神がある明確な像として姿を現すとき、その表現を担った出版の社会に変化が見られる。知識人の運動を掘り下げていくと必ず出版人の動きにぶつかる。出版は新しい知の誕生の裏方の役割を担い、陰影の部分に位置しているが、また知の創業を組織していく面を持っている。したがって、思想が動き出す構造を見るためには、出版の生態的観察が必要となる。それはもともと出版というものが創造的な仕事であったからである。”

二十世紀になって出版は「投機」ではなく、「時代の精神」と連動する「創造的な仕事」に変容したと言う。けだし、逆説である。最近わが国においては、若者の活字離れからやや復調傾向がうかがえるのだそうだが、依然として売り上げ比率は雑誌8：書籍2だという。そして、漫画文化論が喧伝されるもの、ヨーロッパの若者の読書傾向が詩歌7：マンガ3に対し、日本では逆にコミック7：それ以外3だそうである。この信憑性は定かではなく、古来日本人に情緒が欠落しているとは思われないのだが。もっとも、読書傾向は幼少のころの父母の「こころがけ」が決定付けるとも聞く。また、小生自身の経験からも書店の記憶は子どもたちに大きな印象を与えることは事実である。また、書物のなかに描かれている挿絵も、芸術としての創造的産物であり、読者の想像や、知的展開にとつてきわめて重要な要因でもある。

おわりに、二十世紀後半になって書物市場にドラスチックな変化がもたらされたことを強調している。ペーパーバック（PB）の出現である。これまでの欧米の文学書の初版が数千部、学術書にいたっては千部ちょっとであったのに対し、ペーパーバックは少なくとも10万部であり、100万部以上のもも出現し、六〇年代半ばのアメリカの出版点数3万点のうち、PBが1万点に及んでいるそうである。そして何と売れ残りが40パーセントにも及ぶとも述べている。大量生産によるPBの出現は流通や販売も変化させ、書店の変貌もきたしているのである。新たな出版「投機」と本の消耗品化の世相に我々がどう対処していくかが問われているといえよう。学術までもが消耗品的な使われ方に進んで行くとすれば、文化の展望は悲観的にならざるを得ない。ささやかながら我がOMUPの活動を支えていただく会員の皆さんからの忌憚無い主張を展開いただきたいものである。



大学出版部協会 夏季研修会 日中韓三カ国セミナーに オブザーバー参加して

常務理事 足立 泰二

「有限責任中間法人」として2年目を迎えた大学出版部協会も、構成大学数30となり、恒例の研修会と国際セミナーを去る8月24日から26日、京都大学芝蘭会館で開催した。幸いにも、OMUPは協会事務局の配慮でオブザーバー参加を認められた。ここでは、実質2日間の集会の様子を報告したい。

24日午後は、国内の大学出版部協会傘下の出版部職員の研鑽と調整を中心の研修であった。最初に京都大学学術出版会の元理事長も務められた現甲南大学教授物理学の佐藤文隆氏による基調講演のあと、参加大学のうち2大学出版会からケーススタディーとして話題提供があった。大阪大学出版会は編集長の岩谷美也子さんが、創立18年の推移と特徴、さらに2000年を期して「新世紀セミナー」を創設、新展開を志しているという、力強い事例報告の後、活発な質疑、討論があった。次いで、大正大学出版会新井俊正氏から、大学と出版会の関係から、書籍販売、取次ぎ等の問題点について専任職員1人で献身的な努力の状況報告がなされた。参加者からは、今後の方向性への提案など同業者の激励とも思われる質問・意見があった。

25日はセミナーに先立ち、3ヶ国協力に関する「調印」のあと、昼食を挟んで午前と午後に2つの主題で、日本、中国、韓国のそれぞれのスピーカーが熱の入った講演を展開した。とくに午後の「出版と国際交流問題」では、中国、韓国とも大学出版部の対外活動の活発さを知り、オブザーバー参加を忘れて私自身も質問したほどであった。

なお、大会期間中、会場ロビーでは中国と韓国から持参された出版物の数々が陳列され、その後にはジュンク堂書店京都店でブックフェアがなされるとのことだった。

新顔登場

———考える猫の手を提供します———

初めまして。有限会社サイエンスアシストです。今年の7月から大阪公立大学共同出版会(OMUP)の事務局業務を担当させていただくことになりました。弊社は、平成15年5月設立のまだ若い会社ですが、「考える猫の手を提供します」という趣旨のもと、事業内容として

医薬品および食品素材の探索
変異原性、細胞毒性試験
研究動向等調査
海洋微生物、細胞など研究リソース開発
学会、セミナー等の企画、運営

を手がけています。なかでも、学会、セミナー等の企画、運営では実績を積み上げてきました。最近では、1月に「いのちの科学フォーラム」—ストレスで健やかに生きる—でサイエンスと音楽を組み合わせた講演を企画運営し、普段サイエンスは難しいものと思われていた方々からも、身近に感じられたと好評を得ました。

サイエンスアシストのサイエンスは単に科学という意味ではなく、生きるものすべてが共生出来るための知識、智慧ととらえ、生きるものすべてに役立つようアシスト出来ればと考えています。この度OMUPで書籍出版の仕事に関わらせていただける機会を得て、さらにその思いを強くしています。OMUPの更なる飛躍の一躍になるべく努力する所存です。ただ、業務を担当するにあたり、不慣れな事も多々ありご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

平成18年10月

SCIENCE ASSIST サイエンス アシスト

代表取締役 渡邊喜美子

本社：〒599-0216大阪府阪南市緑が丘3丁目9-25
電話：072-472-9511 ファクシミリ：072-472-9512
URL：<http://www.science-assist.com>
e-mail：info@science-assist.com

会員募集

OMUPでは、会員を募集しています。本の出版をお考えの方、図書の普及活動に興味のある方など、ご参加お待ちしております。

<入会>入会金：1口1万円(1口以上)

振込先：UFJ 銀行中もず支店

普通 3976510

大阪公立大学共同出版

編集後記

日増しに秋も深まってまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。“秋”といえば“読書”。未知の世界を体験できる本からエネルギーを得て、“実りの秋”にしたいものです。OMUPの発展のため、微力ながら頑張りますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

サイエンスアシスト 児玉倫子

<OMUP事務局> 〒590-0035 堺市堺区大仙町2-1 大阪府立大学大仙キャンパス内
Tel：(072) 222-4844 Fax：(072) 244-9300
E-mail：omup@hs.osakafu-u.ac.jp
編集発行：有限会社 サイエンスアシスト